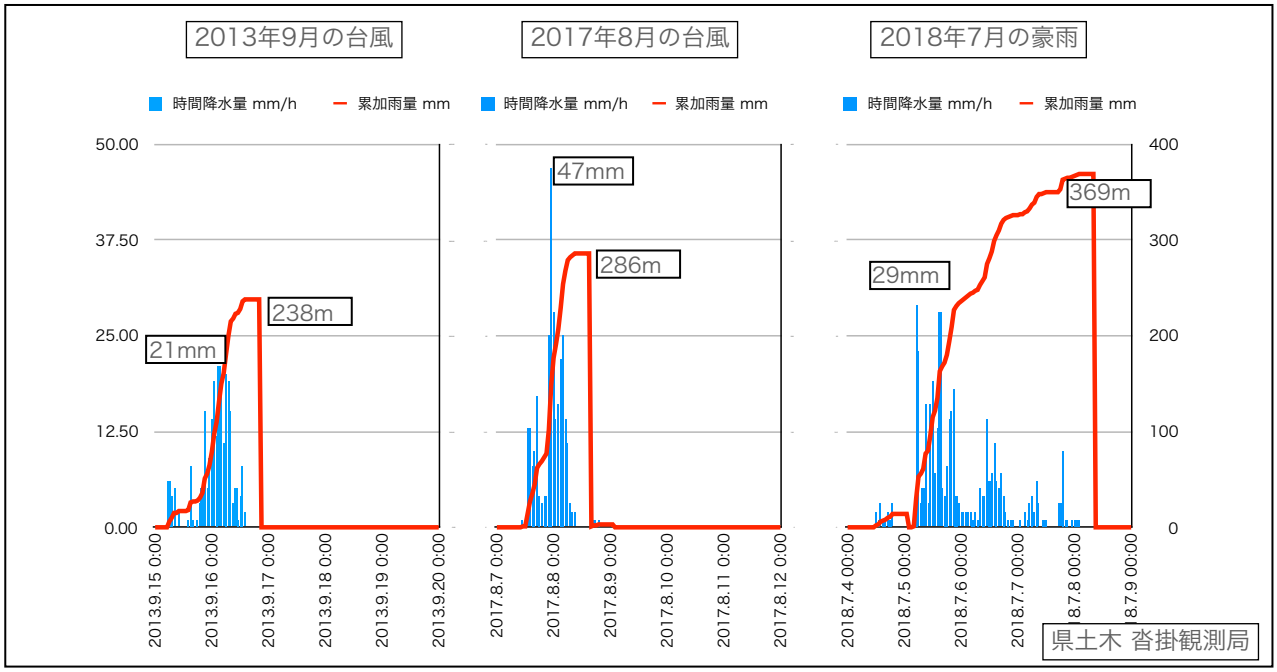
# Yamakado News Letter

山門水源の森を
次の世代に引き継ぐ会



昨年9月の台風では四季の森から流れる沢が氾濫して大量の土砂が湿原に流れ込んだ　Photo Saji

今年の雨は長時間にわたり降り続いた


## 雨の降り方と災害

「平成30年7月豪雨」と名付けられた豪雨は、西日本を中心に北海道や中部地方など日本各地に多大な災害をもたらしました。幸い山門水源の森では大きな蟻害はありませんでしたが、県土木の沓掛観測局のデータによれば、今回の大雨では降り始めからの累加降水量が369mmと、昨年8月の台風５号による大雨での累加降水量286mmを超えていたことがわかりました。それでも昨年の台風時のような被害はなかったのですが、その違いは何でしょうか。一つは時間あたりの降水量が考えられます。今年7月の大雨では１時間あたりの降水量は最大で29mmでしたが、昨年8月の大雨では最大47mmでした。短時間あたりの降水量が多い方が影響を受けやすいと考えられます。ところが、2013年9月の台風時の降水量を確認してみると、上記の２つと比べて時間あたりも累加雨量も多くないことがわかりました。この時の台風は観察を始めた1987年以来、初めて上流の沢が氾濫して湿原へ土砂流入被害が出た台風です。データと実際の影響の相関関係は、簡単に関連付けられるものではないなと思い知らされます。

1987年からの観察で、湿原への土砂流入を初確認　Photo Fujimoto H

森林の下層環境の違いが土砂流出量に影響があるか、土砂移動量調査を継続中

劇団シンデレラの皆さん

人が利用してきた自然を感じる

海と日本 Project in 滋賀

目を瞑ると何が聞こえてくるだろうか…

県立大高橋教授（左）とフォールドワークで初来訪した中岡君（右）

## 森に学びに来た人々

6月24日、愛知県一宮からミュージカル劇団シンデレラに所属する小学生３名が来訪。国内外の環境イベントでの上演やSDGsの取り組みをされているそうです。山門水源の森の自然や保全活動について学びに来られました。何百年と人が利用してきたことが感じられる森は初めての経験だったと感想を述べていました。

7月14日、びわこ放送運営による「海と日本 Project in 滋賀」事業で県内各地域の小学5年生26名が来訪。森の中で自然観察や保全活動体験をしました。また四季の森ではシートに寝転がり、心静かに音や光を観察する体験をしました。

7月15日、滋賀県立大３回生の中岡君がフィールドワークの一環で山門水源の森に来訪。今後何回か保全活動に参加することになりました。これは引き継ぐ会会員が、幾つか知り合いの大学関係者を通じて学生に保全活動のインターンシップの声かけをしたところ、参加してくれることになったものです。2050年を見据えてこの森の保全活動を考えていく上で、どのように次の世代の若い人々に山門水源の森の保全活動に関心を持ってもらうか色々と議論をしています。そうした中でインターンシップの考え方を利用できないかと考え、大学関係者に声かけをしました。まだまだ試行錯誤の取り組みですが、学生、引き継ぐ会、またこの森を含む自然環境や人々の暮らしにとって、良い相乗効果を生み出す取り組みになればと考えています。

## 今月の森の様子

5月中旬から7月上旬にかけて一雨ごとにモリアオガエルの卵塊が作られていましたが、7月後半からは早生まれの既にカエルになった個体が湿地周辺で観察されるようになりました。ササの葉の上で休んでいる様子は、森へ帰る長旅を控えて体力を蓄えているようです。

保全活動では主にブナの森や守護岩周辺のササ防獣ネットのメンテナンスや補強、豪雨で荒れた沢道の補修などを行いました。歩きにくい岩場の凹凸には土のうを置いて平らな足場を確保しました。

7月14日の保全活動・守護岩周辺のササ防獣ネットの補強　Photo Hashimoto K

ササの葉上で寛ぐモリアオガエル

豪雨後は二週間以上晴天が続き、気温も上昇。ハッチョウトンボも倒立で暑さをしのぐ

7月21日の保全活動・足場の悪い道に土のうを置いて足場を改善